



図95 尾根上のテラス遺構



図94 遺跡の位置
5万分1地形図〔弥彦〕

南赤坂遺跡 みなみあかさか
西蒲区竹野町

遺跡は、角田山東麓の台地の中央に位置する（図九九）。南向きの緩斜面（標高九〜一六メートル）と、尾根上（同一三〜一七メートル）に営まれ、範囲は東西・南北ともに七〇メートルほどである。平成五（一九九三）年、カキ畑の造成に伴い、巻町教育委員会が遺跡東部の一一五四平方メートルを発掘調査した。その結果、縄文時代前期〜中期と、古墳時代前期（四世紀）の集落跡であることが分かった。古墳時代について紹介する。

台地の緩斜面からは二棟の竪穴住居跡が見つかったが、出土した土器の特徴から、同時に建てられていた住まいではなく、微妙な時間差がある。緩斜面の西半分は、すでにカキ畑に造成されているため、集落の全体の構造は分からない。しかし、調査地と同じような利用状況だったとすれば、同時に建てられていた住まいは一〜二棟程度だったのであろう。

尾根の先端では、平坦面が上下二段に作られた「テラス遺構」が見つかった。二つのテラスには、それぞれ建物が一棟建てられ、



図96 復元された続縄文土器と折衷土器（右端） 新潟市
指定文化財 右端の口径22.7センチメートル



図97 打製石器 スクレイパー
（削器）長さ9.6センチメートル

下段テラスからは、火を焚いた跡が二か所見つかった。二つのテラスとも眺望はよいが、風当たりの強い所である。このテラスが何に使われたのかは、まだ類例がなく不明である。

特筆されるのは、北海道に特徴的な続縄文土器と、続縄文土器と土師器の特徴を併せ持った

折衷土器である。続縄文土器は三〇個体前後、折衷土器は六個体ほど出土した。その大多数はテラス遺構周辺と堅穴住居内から見つかった。また、特異な形態の打製石器が、同じような場所で四〇点ほど見つかった。石材は主として流紋岩であり、打製石器を伝統的に使っていた北方文化の

系譜を引く石器と考えられる。

南赤坂遺跡は、北方民との直接的な接触を示す、現時点で最も南に位置する遺跡である。遺跡の東約一キロメートルには、同時期の菖蒲塚古墳がある。異なる文化を持つ北方民との交流という、この地の首長が果たした重要な役割がうかがえる。